

## 高成長続く成長国の金融業界

経済成長著しい成長国\*では、このところ金融産業の成長も目立ってきています。なかでも個人消費の増加を背景に、個人向けローンの需要が拡大しており、貸付残高が堅調に伸びています。

例えばトルコでは、中間所得層の拡大に伴う消費の活発化や、貸付金利の低下が寄与し、消費者ローンやクレジットカードなどの個人向けローンの残高が急増しました。またトルコは29歳以下が全人口の半数以上を占めており、今後、若年層が労働人口に加わっていくことで、消費が活性化し、さらなるローン需要の伸びも期待されています。

同じく成長国であるロシアでも、同国最大の商業銀行ズベルバンク（ロシア貯蓄銀行）を中心に、クレジットカードローンや住宅ローンなどのビジネスが拡大してきています。ロシアの住宅ローン市場は、世界金融危機時に大きく落ち込んだものの、旧国営住宅からの住み替え需要により、2011年は前年比75%の成長を記録。2012年も同30%伸びると予想されています。（GS証券調べ）

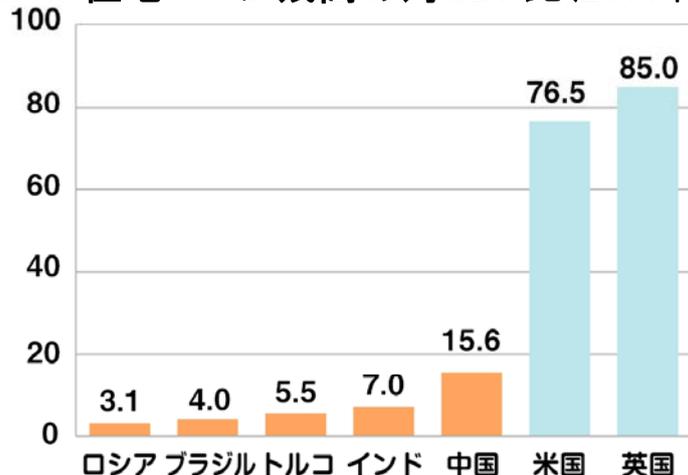
成長国の住宅ローン市場の規模は、先進国と比べてGDPに占める割合が依然低く、その分“のびしろ”が多いと考えられます。こうしたことから、個人向けローンの今後のさらなる拡大に注目です。

\* 「成長国」とは、ゴールドマン・サックスが提唱する今後世界経済の成長を牽引するであろう8カ国（ブラジル、ロシア、インド、中国、韓国、トルコ、メキシコ、インドネシア）を指す。

（単位：億トルコリラ） **トルコの金融産業**



（単位：%） **住宅ローン残高の対GDP比(2011年)**



（出所）実質GDP推移はトルコ統計局／ローン残高推移はトルコ中央銀行

（出所）Eurostat, National Central Banks, EMF, IMF, Goldman Sachs International

成長国について詳しくはこちらから [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、信頼できると思われる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複写、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。<審査番号:80388.OTHER.MED.OTU>  
© 2012 Goldman Sachs. All rights reserved.



Asset Management